

(小事業1) 地域支援体制整備事業

特別支援教育課

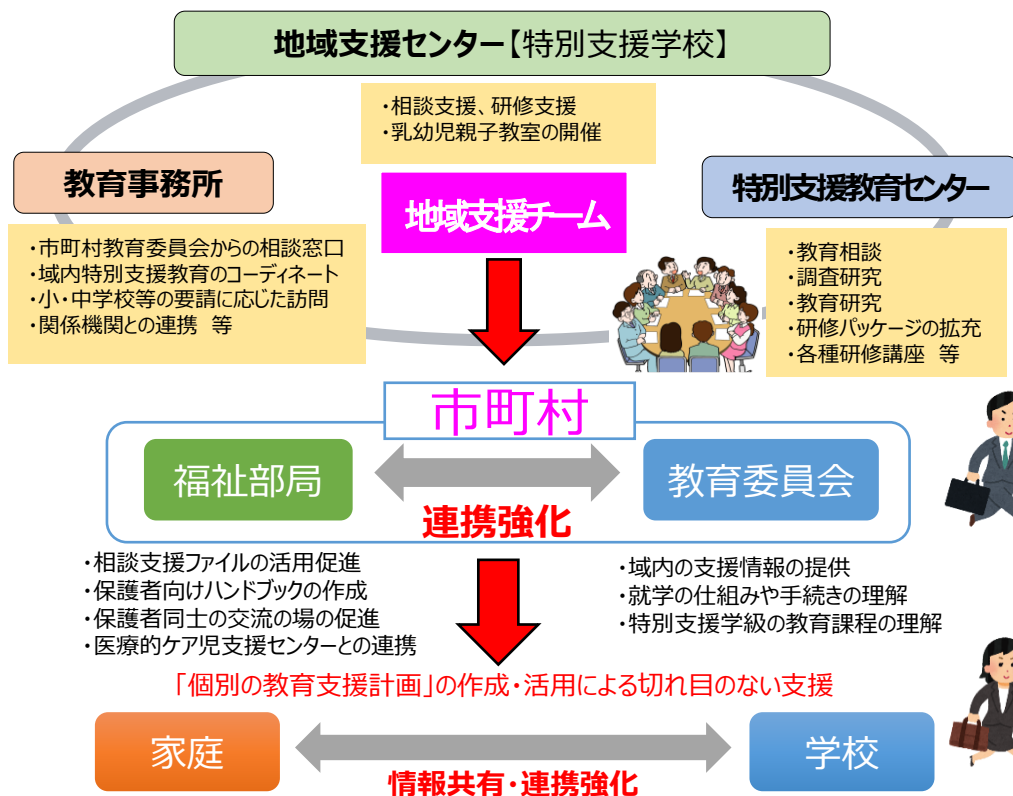
現状・課題

- 県立特別支援学校25校に『地域支援センター』を位置付け、特別支援教育のセンター的機能として地域支援を進めている。
- R6は、出かける支援件数は996件、来校相談件数は1,596件、特別支援教育アドバイザー相談件数は500件で、合計3,082件であった。
- 視覚障がい、聴覚障がいの児童生徒は県内各地に在籍しており、乳幼児期からの適切な支援を必要としている。
- 医療的ケアを必要とする児童生徒が県内各地に増えており、地域で学ぶための支援体制を整えていくことが求められている。
- 入院している児童生徒への教育は保障されてきたが、学習の質や遠隔教育の推進、学校と病院との連携に課題がある。
- 多様な学びの場の理解と就学の仕組みや手続き、教育課程の編成、個別の教育支援計画を活用した一貫した支援に課題がある。
- 特別支援教育に携わる教員の専門性の向上を図り、通級による指導の充実や通常の学級における児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援をし、学びの推進を図っていく必要がある。

目標

- 児童生徒や保護者の就学への不安を支えるとともに、卒業後まで支援をつないでいく。
- 特別支援教育に係る各市町村の支援体制の整備・充実を図る。

「地域支援体制」の連携図



「地域支援体制」を整備するための会議・研修会

